

平成30年度 社会福祉法人新地町社会福祉協議会 事業報告書

社会福祉事業の健全な発達及び活動の活性化により、地域福祉の推進を図ることを目的に事業を進めてまいりました。

地域福祉の充実では、民生児童委員協議会やボランティア団体と協働して、高齢者世帯やひとり暮らし高齢者の支援活動を実施しました。また、老人クラブ活動育成、いきいきサロン活動助成、福祉関係団体の活動助成、心配ごと相談所事業等を実施しました。

在宅福祉サービスの推進では、ひとり暮らし高齢者給食サービス事業を実施したほか、身体障がい者福祉協会、手をつなぐ親の会等の事業への協力を行いました。

東日本大震災により被災された方の支援については、まだ心身の健康面に不安をかかえている方もおり支援が必要な状況から、生活支援相談員による訪問活動を継続して実施しました。

高齢者が住み慣れた地域で支え合い安心して暮らせる地域づくりを目指し、生活支援体制整備事業に取り組みました。

介護保険事業として居宅介護支援事業所・訪問介護事業所の運営を行いました。

1. 組織体制の充実と自主財源の確保

(1) 会議開催等

理事会5回、評議員会4回開催し、17件の議案について審議した。

監査会は事業部門及び経理部門を精査し、適正に処理されていることが確認された。

(2) 連携強化

行政区長、民生児童委員協議会及び福祉団体、ボランティア団体等との連携を密にし、組織の充実に努めた。

(3) 財源基盤の強化の推進

社会福祉協議会の事業運営は、町からの補助金と会員の会費によって行っている。行政区長のご協力をいただき、全戸会員を目指し募集にあたった。

① 会費

会員区分	金額	内 訳
一般会員	2,234,000円	1,000円×2,234戸
特別会員	315,000円	5,000円×47名、10,000円×2名、議会議員互助会
法人会員	700,000円	10,000円×59社、20,000円×1社、30,000円×3社
合計	3,249,000円	

② 寄付金

種類	件数	金額
一般寄附	8	1,799,765円
ご遺志金	1	200,000円
災害義援金	1	25,311円
合計	10	2,025,076円

2. 地域福祉の充実

(1) 地域福祉事業の推進

① 民生児童委員協議会やボランティア団体との協働活動の強化

ア 民生児童委員協議会の開催

民生児童委員並びに主任児童委員の職務を円滑に遂行するため、毎月、協議会例会を開催し、情報の共有と研修を行った。

●民生児童委員協議会の状況

民生児童委員	主任児童委員	合計
24人	2人	26人

●民生児童委員の活動状況

相談・支援	訪問	連絡調整	活動日数
261件	4,450回	3,008回	4,156日

イ 民生児童委員協議会との協働活動

高齢者の状況に応じたサービスの提供と、緊急時に対応するため民生児童委員からの「高齢者福祉票」によりその把握に努めた。

●高齢者福祉票の状況(対象者：70歳以上)

	H30.3.31 (世帯)	増減		H31.3.31 (世帯)
		増	減	
高齢者世帯	106	11	8	109
ひとり暮らし高齢者世帯	127	15	15	127
合計	233	26	23	236

② 老人クラブ活動育成

高齢者の生きがいと健康づくりのために、地域の老人クラブの果たす役割は大きい。そこで、町老人クラブ連合会が行う活動の指導にあたり、単位老人クラブ活動の充実と発展を図るため、老人クラブ指導員1名を配置して老人福祉の増進に努めた。

●単位老人クラブ数

14クラブ

●クラブ会員数

(単位：名)

平成30年3月31日			平成31年3月31日			増減
男	女	計	男	女	計	
261	368	629	255	356	611	△18

③ いきいきサロン活動助成

地域において参加者が主体となって自主的に運営し、仲間づくりの輪を広げたり、社会参加を促進したりしている地域のつどいの場（いきいきサロン）の運営を支援することにより、地域福祉活動の推進を図った。

●いきいきサロンの状況

20団体 助成額442,000円

自主的に運営し、閉じこもりの防止と生きがいをづくりに努めた。

開設地区

（鉄炮町 大山田 明地 中里 木崎 作田 上真弓 下真弓 岡 杉目
新地町 小川 雁小屋 大戸浜 今泉 菅谷 高田 駒町 藤崎 富倉）

④ 福祉関係団体の活動助成

福祉団体に対し、活動費の助成及び事務的援助を行った。

10団体 助成額230,000円

⑤ 社協だより「まごころ」の発行、ホームページの活用

年3回

⑥ 生活資金の貸付及び相談・支援

○生活福祉資金の貸付け状況（福島県社会福祉協議会）

平成31年3月31日現在 5名 2,320,010円

○生活援助資金の貸付け状況（新地町社会福祉協議会）

年間貸付件数・金額 10件（実利用者6名） 385,000円

○生活に関する相談・支援

●生活困窮者自立支援事業（県社協）の状況

	新規相談		プラン 作成件 数	うち子供の学 習支援事業		うち一時生 活支援事業	就労者数 （一般就 労数）	増収 者数
	受付 総数	申込 件数						
30年度	11	9	8	2		3	1	0

資料：福島県社会福祉協議会生活自立サポートセンター相双事務所

⑦ 心配ごと相談所事業の推進

町民の日常生活上の悩みごと相談に応じ適切な助言を行うため、相談員8名の交代制により、相談所を毎月3回開設した。

相談内容も複雑多様化しているため、弁護士による無料相談会を3回開設した。

●心配ごと相談

相談者 4名 相談件数 4件 (土地、家族関係、財産(相続)、苦情)

●弁護士無料相談会

相談者 5名 相談件数 5件 (相続、金銭トラブル)

(2) 生活支援体制整備事業の推進 (新地町委託事業)

高齢者が住み慣れた地域で支え合い安心して暮らせる地域づくりを目指し、生活支援コーディネーターを配置して、定期的に住民対象の地域づくり勉強会を開催し、グループに分かれての話し合い等を行った。

また、1月には生活支援コーディネーターが地域を訪問してみつけた支え合い活動(地域のお宝)の中から「いいね!グループ」3団体を顕彰した。3月には、「ご近所支え合いガイドブック」を作成して全戸配布し、地域支え合いの「見える化」「見せる化」に取り組んだ。

3 在宅福祉サービスの推進

(1) 高齢者福祉事業

① 介護保険制度に伴うサービスの提供

ア 居宅介護支援事業 (ケアプランの作成)

要介護1～5	
実利用者数	49人
延べ取扱件数	423件

イ 訪問介護事業 (身体介護・生活援助)

	要介護1～5		備 考
	実利用者数	延べ回数	
身体介護	8人	1,674回	
生活援助	10人	696回	洗濯、清掃、買物等
身体生活	6人	469回	介護と家事の複合型

ウ 総合事業 (ホームヘルプサービス)

要支援1～2	
実利用者数	11人
延べ取扱件数	96件

② 新地町要援護高齢者等外出支援サービス事業（新地町委託事業）

実利用者数	延べ利用回数
2名	17回

③ ひとり暮らし高齢者給食サービス事業の実施

おおむね70歳以上のひとり暮らし高齢者で民生児童委員を通して高齢者福祉票が提出されている方を対象に、下記のとおり給食サービス事業を実施した。なお、今年度から3月の配食サービスを開始した。

ア 配食サービス

民生児童委員の協力により昼食を自宅に届けることにより、定期的かつ継続的な見守りを行った。

年間配食回数	33回（5月～3月 月3回）、1,863食
--------	-----------------------

イ 集合サービス（ふれあいのつどい）

町バスや社協車両の送迎により保健センターに集合し、ゲームやボランティア団体等の協力を得て準備した昼食会で交流した。また、移動研修では道の駅などでの買い物と外食を楽しんだ。

年間実施回数	10回、312食
--------	----------

④ 高齢者世帯交流会の実施

町内に住む70歳以上の高齢者世帯を対象に、9月28日に保健センターで社会参加や参加者同士の交流を目的に実施した。15世帯22人が参加し、ゲームや「坊さんバンドG・ぷんだりーか」の法話と音楽を融合させた演奏を楽しんだ。

⑤ 福祉用具貸出事業

本会が有する物品の有効活用を図り、地域福祉の向上に資することを目的に福祉用具等の貸出を行った。

ア 介護福祉用具

車イス利用者数 13名

ギャッジベッド利用者数 10名

イ 地域福祉用具

テント、大なベセット、鉄板、臼・杵、レクリエーション用具等を、福祉用具が必要と認められる自治会、地域団体、サロン等に貸し出し

た。

(2) 障がい者福祉事業

① 身体障がい者福祉協会、手をつなぐ親の会事業への協力

ア 新地町身体障がい者福祉協会

身体障がい者の福祉増進を図るため、レクリエーション交流会や県グラウンドゴルフ大会への参加など、身体障がい者福祉協会が実施する事業を支援した。

イ 新地町手をつなぐ親の会

心身障害児者を護り、その福祉を図るため、新地町手をつなぐ親の会のサロン活動、お楽しみ会等の実施を支援した。

4. 福祉ボランティアの町づくり事業の推進

(1) 奉仕活動啓発推進

① ボランティア団体の育成・支援

ボランティア連絡協議会事業への協力支援

② 情報、資料の提供、ボランティア活動保険への加入促進

○ボランティア活動保険の加入状況

平成29年4月1日	平成30年4月1日	増減
568名	541名	△27名

5. 共同募金・日本赤十字活動の推進

(1) 共同募金、歳末助け合い運動及び募金活動の推進

① 共同募金、歳末助け合い運動の実績

募金項目	目標額	実績額	達成率(%)
赤い羽根共同募金	1,444,000	1,381,999	95.7
歳末助け合い運動	1,193,000	1,171,001	98.2

② 歳末助け合い事業

●商品券の配付

対象世帯	配付戸数	利用枚数	金額(円)
ひとり暮らし世帯(一世帯2枚) (70歳以上)	121	236	236,000
高齢者世帯(一世帯2枚) (70歳以上)	103	201	201,000
在宅介護者(一世帯5枚) (要介護3以上)	51	218	218,000
在宅重度障害者(一世帯5枚)	30	149	149,000
合計	305	804	804,000

●町内福祉施設への配分

7施設 配分額210,000円

●ひとり暮らし高齢者を対象としたお楽しみ会(交流会)の実施

町内に住む70歳以上のひとり暮らし高齢者を対象に、3月13日午前10時から新地町保健センターで、社会参加や参加者同士の交流を目的に実施した。34名が参加し、ゲームやケーナ(中南米音楽)の演奏で楽しんだ。

(2) 赤十字思想の普及と社員増強運動の推進

●日本赤十字社費の実績

募金項目	目標額	実績額	達成率(%)
日赤社資運動	1,189,000	1,215,000	102.2

●西日本豪雨災害義援金

7月9日～8月8日まで義援金の受付を行ったところ、383,720円の義援金が寄せられ、この義援金は日本赤十字社福島県支部を通じて被災地へ届けられた。

6. 日常生活自立支援事業(地域福祉権利擁護事業)

判断不十分な方への福祉サービス利用援助・日常的金銭管理サービス・書類等の預かりサービス及び生活全般にわたる相談・助言の提供。

金銭管理・書類等の預かり	1名	2回
--------------	----	----

7. 東日本大震災による被災者の支援

福島県社会福祉協議会より委託を受け、生活支援相談員2名を配置し、防災集団移転団地・災害公営住宅・自主再建世帯等への全戸訪問を定期的に行い、被災者の生活相談に応じた。必要に応じて、保健・福祉関係者及び行政との連携を図り状況把握に努め、孤立防止等の支援を行った。

●見守り・相談支援世帯数

(平成31年3月31日現在)

	世帯数	うち65歳以上の世帯数	入居者数
公営住宅	3	1	12
災害公営住宅	122	62	256
避難先で自立再建した住宅・アパート	58	20	201
避難前にお住まいだった市町村の住宅・アパート	246	139	813
合計	429	222	1,282

※新地町社会福祉協議会が事務局を担当する団体

1. 老人クラブ連合会
2. 身体障がい者福祉協会
3. 手をつなぐ親の会
4. 戦没者遺族合会
5. 民生・児童委員協議会
6. ボランティア連絡協議会
7. 赤十字奉仕団
8. 日本赤十字社福島県支部新地町分区
9. 新地町共同募金委員会